

ヘリコプター離発着場の設置方法

【安全対策等】

- (1) 離着陸地帯には、ヘリコプターから明瞭に視認できる境界線を示す標識を設けること。
- (2) 離着陸場には、航空機に安全侵入方向を予知させるため、上空から機長が識別できるよう吹き流し又は発煙筒により風向を示しておくこと。
吹き流しの設置場所については、着陸に支障がなく見通しの良い場所(ヘリコプターの風圧で飛ばないように留意すること。)とし、標準寸法は下図のとおりであるが、夜間の場合は風向が判読できる照明施設の併設が望ましい。
- (3) 着陸地帯の中央に石灰粉、ペンキ等で直径 10m の着陸中心を示しておくこと。
- (4) 離着陸場付近への立ち入り禁止の措置を講ずること。特に、付近に道路がある場合は、離着陸の際一時通行止めの措置をとること。(必要なときは警備員を配置すること。)
- (5) 離着陸地帯(離着陸方向)近くの進入区域内は、人又は物件が存在しないよう開放すること。
- (6) 地表面が乾燥している場合は、砂塵の巻き上げ防止のため、事前に十分な散水を行うこと。
- (7) 夜間使用する場合は、着陸地点に上空から識別容易な赤色回転灯などの灯火標識を行うこと。
(消防車等の赤色回転灯の代替も可)

特に、密集地域においては、ヘリポートの場所が遠方から認識できるよう、近隣の支障のない建物の屋上等に他の照明と区分できる灯火標識を仮設できるようにすること。(予め、灯火標識の設置場所、内容等を通知するものとする。)

夜間照明施設により、離着陸地帯で人物が確認できる程度の照明を行うこと。また、照明施設を装備できず車両等で代替する場合は、上空から離着陸場の位置の目印となるよう消防車両等の赤色回転灯を点灯し、次の要領によること。

【車両による照明方法】

- (9) 冬期間活用する場合は、直径 10m 程度の範囲内で、雪が飛散しないよう除雪された状態若しくは踏み固められた状態とすること。
- (10) 冬期間、除雪するいとまがなく、かつ、積雪 30 cm 以上の場合は、雪を踏み固めたうえで、角材を次の位置に設置すること。

【角材寸法 ; 15 cm × 15 cm × 200 cm】

角材の上にスキッド(足の部分)が乗るようになる。